



「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、研究所から発信する情報の提供を目的として、発行していきます。

平成26年度 第2回道徳教育研修会

日時：平成26年10月21日（火）実施
対象：高知市立小・中学校道徳教育担当教員
及び参加希望教職員

目的 道徳教育の要である道徳の時間における指導を充実させるための方策についての協議や研修を行い、道徳教育の一層の充実を図る。

研修Ⅰ【公開授業】

授業者：大津小学校 田中 裕子 教諭

- 1 主題名 「広い心で」
(内容項目2-(4))
- 2 ねらい
ピエロの心の変容を読み取ることを通して、自分と異なる意見を広い心で受け止め、大切にしていこうとする心情を育てる。
- 3 資料名 ブランコ乗りとピエロ
(文部科学省「私たちの道徳」)

【授業者の願い】

児童がお互いの意見を述べ合うことを通して、自分と異なる意見を認めることが相手のためだけでなく、自分自身のためになることに気付いてほしい。また、その気づきを今後の生活の中で意識してほしいと考える。

【授業を参観して】

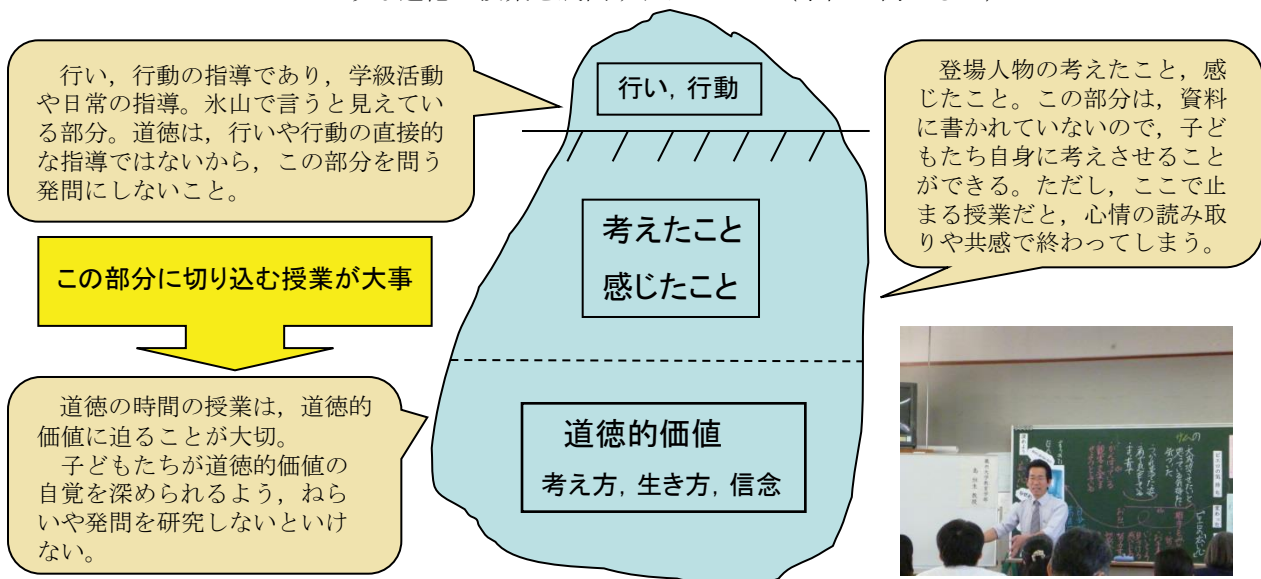
- ・ 子どもたちが、意見を言ったり、仲間の意見を聞いたりをしている。普段の授業で、子どもたちが主体的に学習を進められていることが分かる。先生は、方向を示すだけでよかったことが、素晴らしい。
- ・ 書く、話し合う、発表する、深め合うという手順を通して、道徳的意味を探究する手法を学ぶことができた。

研修Ⅱ【講評・講話】「道徳の時間の指導の充実」

全体講師：畿央大学教育学部現代教育学科 島 恒生 教授

道徳教育では、自立した一人の人間として、他者とともによりよく生きる人格の形成をめざす

どのような道徳の授業を展開すればいいか（氷山に例えると）



【受講者の感想】

- ・ 道徳的価値に迫る発問の工夫が大切であることを知った。そのためには、主人公の気持ちに共感させることも大切だと思う。
- ・ テーマに対して、教師はしっかりと道徳的論理をもつ必要があると感じた。テーマ発問や価値ある発問について今後研究していきたい。
- ・ 「教材は、題や内容からテーマを投げかけるもの。自身のことばで、見えない考えにまで落としこんでいくようにする、深める。」という話になるほどと思った。

公開授業

5・6年生の授業風景



【学年】	【単元名】
つくし学級	「ペットボトルボウリングをしよう」 ソーシャルスキルトレーニングー20までの数の理解ー
1 年 生	どちらが ひろい
2 年 生	かけ算(2)
3・4年生	3年「三角形」 4年「面積のはかり方と表し方」
5・6年生	5年「四角形と三角形の面積」 6年「場合の数」

※ 研究の取組については、当研究所が発行する所報「研究」で詳しく紹介させていただきます。

全体講演 「子どもと共につくる算数の授業 ～複式学級の実践を通して～」

講師：南国市立三和小学校 小松 和久 教諭

●子どもと共につくる算数の授業

子ども側にたった授業をするためにも、大きく二つの場面における教師の役割を大切にしたい、



課題をつかむ場面

子ども自身に「したいこと」が生じ、主体的に取り組めるように！



あれ？
なぜかな？
今度はできないぞ？
前の問題と似ているな
～すればできそうだな
～してみたいなあ
やってみよう



～はこういうことかな？
～と考えが同じだね
でも、～じゃないのかな？
もし～なら・・・
～なるほど。そうか！
～がわかった！
～な場合はどうかかな？



うまく言えたよ
分かってくれたよ
みんなに認められたよ
自分たちでできたよ
またやりたいな

* 誰もがができる場面から立ち止まる場面へ

- ・ 感覚的にぱっと判断できるような場面
→ 感覚的に判断しにくい場面へ
- ・ 既習事項がそのまま使えるような場面
→ そのままでは既習事項が使えない場面へ
- ・ あたりまえの場面
→ 意外な場面へ

- ・ 自分にも「できそうだな」という思いができるように、誰もが容易に学習対象とかわかれるように、見通しをもたせるようにする。



* 全員が表現する

図を使う。ノートを使って伝え合う。自分の言葉で表現する。全員で一つのことはっきりさせる。

* 考えの曖昧な部分を揺さぶる

「本当に？」 「それで全部なの？」

* 大切な言葉を認め合う

子どもの話合いの中から、大切な言葉を見出し価値づける。

子どもの考えが
明確になる場面

かかわりを通して考えが深まるように！



《見えなかったものが見えてくる》

- * 見方・考え方のひろがり
- * 基礎的な知識・技能の獲得
- * 学習の主体者意識

【参加者の感想】

- ・ 公開授業や講演から、子どもが自分の考えを発表したり、伝えたりする場面を授業の中に位置づけることが大切だと感じた。
- ・ 授業でも工夫されていたように、子どもが「できそうだな」「やってみたい」と思える内容を考えていきたい。
- ・ 講師の小松先生からは、電子黒板を使った導入例を紹介していただいた。子どもが自ら考え、主体的に取り組むことができるようにするためにも、導入や課題設定の工夫が大切だと改めて感じることができた。